

1 目的

- (1) 防災意識の高揚を図る。
- (2) 地震が発生した場合の具体的な対応・避難方法を考える。

2 日時

令和4年11月2日（水） 14時23分～15時15分（5限目終了後の休み時間～6限目相当）

3 想定する災害

人吉盆地南縁断層を震源とした地震が発生。マグニチュード7.1，震度5強，ライフライン状況は電気：停電，ガス：遮断，水道：断水，電話：不通，下水：不明。

(1) 一次災害

11月2日（水）5限目終了後の休み時間（14：23）に，人吉盆地南縁断層を震源とした地震が発生。マグニチュード7.1，震度5強。

(2) 二次災害

停電回復後，断線からの通電火災発生（ア・イ同時出火）

ア 売店前

イ 2階エレベーターホール

(3) 点呼時不在生徒（3階視聴覚室横トイレ1名負傷，1名付き添い）ビブス着用

ア 沖田 いろは（2年1組）

イ 田中 実桜（2年6組）

地震発生時トイレ前に待機

4 訓練の実際

時間	訓練内容	備考
14:23	<p>緊急地震警報</p> <p>○音＋「緊急地震速報です。強い揺れに警戒してください」繰り返し</p> <p>○1分間の地震音</p> <p>生徒・職員その場で退避行動にて，安全確保</p>	事務職員
14:24	<p>地震の揺れ収束</p> <p>（生徒）安全な場所に移動後，その場で待機。</p> <p>（職員）</p> <p>教頭・主幹教諭：「地震の揺れが収まりました。生徒の皆さんは先生の指示に従ってグラウンドに避難して下さい。」（ハンドマイク）</p> <p>校長，副校長，教頭，主幹教諭，事務長：グラウンド本部設営担任，学年主任：グラウンドに出て生徒点呼準備</p> <p>副担任：各学年のフロアへ移動，移動の際危険箇所の確認。</p> <p>各クラス出席簿を持って，フロアで待機している生徒へ安全な避難路を指示した後，生徒を階段から階下の職員へ引き渡す。</p> <p>フロアの職員は，階段で混雑しないよう誘導と生徒の避難が完了している確認を分担して行う。</p> <p>※ 生徒が避難後，各教室を回り，生徒がいないことを確認し入り口に付箋紙を貼付</p> <p>1組，6組の副担任は教室横トイレを確認，付箋を入りに口に貼付</p> <p>2組副担任，多目的トイレの確認，付箋を入りに口に貼付</p> <p>生徒の避難完了確認後，避難。グラウンドで出席簿を担任へ渡す。</p> <p>学年職員：各学年と同じ階の管理棟教室等を確認。確認後は付箋を貼付</p>	

14:28	○管理棟3階視聴覚室横トイレにて負傷生徒及び付き添い生徒発見 ○4階巡回職員（岡本幸）へ連絡，担架の要請及び，負傷生徒運搬 ○負傷者を養護教諭に引き渡す	寺田 岡本幸
14:30	○停電回復 ○二次災害発生（通電火災発生） ○消防署職員によるスモークマシンによる水蒸気スモーク発動 火災報知器作動 発見者は近くの非常ベルを作動。 （2階エレベーターホール：田原） （売店前：嶋北） ※雨天時は売店前の火災発生無し 放送「火災です。火災です。避難してください」繰り返し 火災報知器で発生場所確認 放送「売店前および2階エレベーターホール付近の2カ所より出火。近くの職員は初期消火に向ってください。」	消防職員 田原 嶋北 事務 事務 事務
14:32	○警察・消防署への連絡 電話不通のため，携帯電話より119番通報 「訓練火災発生，人吉高校売店前，2階エレベーターホールより出火」 消防の指示に従い状況を報告 ※北泉田町350番地（TEL 22-2261）	事務職員
	初期消火の状況を事務室へ連絡（初期消火成功・失敗）等	
14:45 -14:55	○点呼 生徒：クラス室長→担任→学年主任→教頭 職員：教科主任→副校長	
14:55	講評 消防職員 副校長 学校安全アドバイザー 柴田 様	
15:10	教室移動 （晴天時） 各クラス昇降口でスリッパを清掃し校舎内へ移動後，休み時間へ ※各クラス保健委員は，昼休みに教室から雑巾を準備。各クラス下駄箱前に雑巾を濡らして絞った後，広げて置いておく。	

5 避難場所

晴天時：グラウンド

荒天時：体育館

本部



体育館・校舎側

ステージ

本部

6 避難経路

(1) 晴天時

ア 管理棟

(ア) 火災発生前

東西階段から正面玄関，定時制駐車場，図書館側出口より正面玄関前を通りグラウンドへ

(イ) 火災発生後

4階へ上がり東側階段を使用して，正面玄関からグラウンドへ

イ 教室棟

(ア) 火災発生前

各学年1234組東側階段から1階エレベーターホール側出口及び体育館側出口からグラウンドへ移動。

567組西側階段から中庭側，武道場側出入り口から屋外へ，自転車小屋側，図書館裏側へ迂回してグラウンドへ移動

(イ) 火災発生後： 西側階段から中庭側，武道場側出入り口から屋外へ，自転車小屋側，図書館裏側へ迂回してグラウンドへ移動

(2) 荒天時

ア 管理棟

(ア) 火災発生前

西階段から1階渡り廊下出口-教室棟-武道場前-第一体育館へ

東階段から1階渡り廊下出口-教室棟-第一体育館側出口-体育館へ

(イ) 火災発生後

4階へ上がり東側階段を使用して，中庭側からエレベーターホール-体育館側出入り口-第一体育館へ

イ 教室棟

各学年1234組東側階段-体育館側出口から第一体育館へ移動。

567組西側階段から武道場前出口から第一体育館へ

ウ 荒天時の体育館避難

1年1・2・3・4組はグラウンド側通路→テニスコート側より入場

5・6・7組は第2体育館側通路→テニスコート側より入場

2年1・2・3・4組はグラウンド側通路→テニスコート側より入場

5・6・7組は第2体育館側通路→テニスコート側より入場

3年 校舎側より入場

※スリッパは体育館入り口で脱ぎ手に持ち体育館内へ→整列後右側に置く

7 準備物

(1) ハンドマイク×2 (停電時放送代替のため)

(2) 養生テープ (倒壊箇所・通行止め)

(3) ふせん (各教室確認済みマーク)

(4) スモークマシン2台 (下球磨消防組合に依頼済み)

8 生徒への事前指導

(1) 生徒への説明事項（教室掲示）

ア 想定される地震・ライフライン

イ 停電を想定しているが、地震警報及び地震の揺れの音は放送で知らせる。

ウ 生徒は、場所に応じた下記の退避行動にて、安全行動（自助）を実施する。

(ア) 基本事項（退避行動の基本）

a 地震発生時には、上から物が落ちてこない、横から物が倒れてこない、物が移動してこない場所を判断し身を寄せること。

b 座布団やバッグ等で頭を守ること

c 地震の揺れが収まった後は、安全な場所で待機。

d 職員の避難誘導の指示で避難開始。

e 移動時は、おさない・かけない・しゃべらないこと

(イ) 教室での対応（教室での退避行動）

a 机の下に退避する。

b 机の下で、揺れが収まるまで待つ。

(a) 本棚・ロッカーから離れる。

(b) 机にもぐり込む際に本棚・ロッカーなど転倒する恐れのあるものが近くにある場合は机を持って離れる。

(c) 揺れが強くて動けない場合は、机の下で対角に脚を握りしっかり身を守る。

※ 頑丈に作られている学校机では頭や首を守ることができ、落下物による被害からは概ね守られる。

c 窓から離れる。

窓際の席は、強い揺れで窓ガラスが割れたとき一番危険となる。どうしても身動きがとれず窓側から離れられないときは窓際に背を向け、背中部分は上着や代わりになるもので守る。その際、頭を守ることも忘れない。

d 出入り口がふさがれてしまわないようできればドアを開け、避難経路を確保する。

(ウ) 校舎内（廊下・階段）での対応（校舎内での退避行動）

a 揺れによる窓ガラスの割れや落下物の飛散でケガをしないように、窓や蛍光灯を離れ、落下物のないところで壁に身を寄せ、頭を守ってしゃがみこむ。

b 階段にいるときは急いで上ったり下りたりしない。

※ 踏み外して転落するとケガの恐れもある。ケガをした場合は身動きが取れなくなる。

※ “揺れているとき”の階段での移動は本当に危険なので原則おこなわない。ただし、余裕が有る場合にのみ、踊り場や廊下まで下りる。

c 窓や落下物がないかを確認し、その場で壁に身を寄せ、頭を守ってしゃがみこむ。

(エ) 校舎外（屋外）での対応

a 上から物が落ちてこない、横から物が倒れてこない、物が移動してこない場所を判断し身を寄せること

b 周りの安全を確認し、避難場所に移動できる場合は移動する。その際、割れたガラス、倒壊物、落下物に注意する。

c 職員の誘導により移動

9 校内の倒壊，火災発生箇所

